



生命保険料 料率改定

2018年4月より標準生命表の改定により一部の保険商品が値下げされました。

2018年1月末時点で使用されている標準生命表は、2007年から採用されているもの（標準生命表2007）ですが、2018年4月から新しく「標準生命表2018」が使用されることが決まりました。

標準生命表とは、公益社団法人日本アクチュアリー会より発表されている、日本人の死亡率や平均余命を年齢・性別に区分し示した一覧表で、生命保険会社が保険料を算出する際の基礎データです。

値下げされる保険の種類は、定期保険、収入保障保険、逓減定期保険、といった、掛け捨てタイプの生命（死亡）保険です。

保険者の年齢・性別、商品により下げ幅は違いますが、概ね5～15%安くなります。

2018年4月以降、ほとんどの生命保険会社で同様に実施されてます。

前回の標準生命表作成から約10年が経過しておりますが、この間に日本人の平均寿命は延びています。

つまり、2018年4月から採用されている標準生命表では、以前のものよりも死亡率が下がり、平均余命が延びているということになります。

死亡リスクが下がっているので、保険会社が死亡保険金を支払うリスクも小さくなり、結果的に生命保険（死亡保険）の保険料も値下がりするという仕組みです。

ただし、貯蓄タイプの生命保険の場合は、「貯蓄部分」の運用成績が関係してきますので、マイナス金利で運用が難しい今、値下がりする可能性は低くなります。

また、がん保険や医療保険の改定も同時に行ったり新商品として発売開始している会社もあり、加入してからしばらく見直しをしていない方は、この機会に保障の内容を含めて見直しをお勧めします。

（文責 岸本）

